

**Panasonic**

# オーディオミキサー

## 取扱説明書（追補版）

品番 WR-DA7V

この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
そのあと保存し、必要なときにお読みください。

保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、  
販売店からお受け取りください。

保証書別添付

**RAMSA**



写真は、メーターブリッジ WR-MTBR（オプション）を取り付けた状態です。

# 本書について

この取扱説明書は「WR-DA7V」専用です。  
WR-DA7の取扱説明書（別冊）に対して、変更になる部分のみをまとめています。  
また、WR-DA7取扱説明書（別冊）の関連ページを次のように表しています。

《関連ページ》  
第1章 商品概要  
16ページ

ご使用の際は、本書とWR-DA7の取扱説明書をあわせてお読みください。

# もくじ

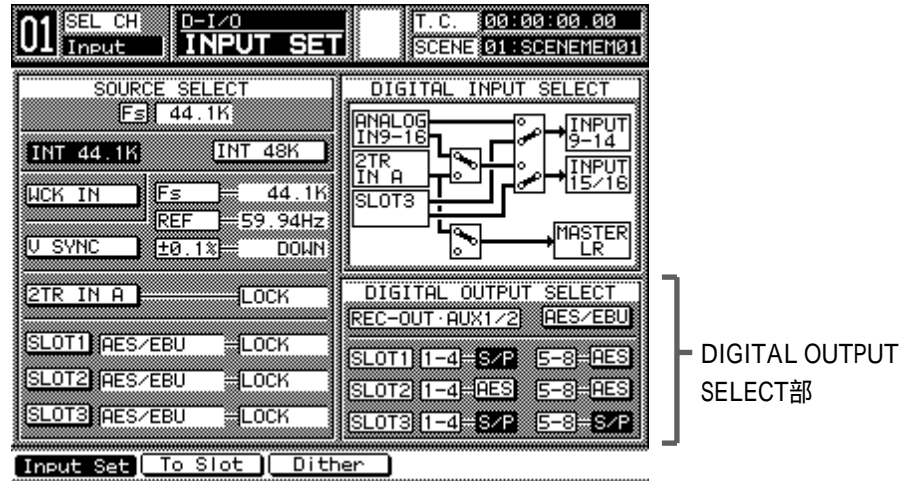
1. デジタル出力の設定 .....	4
2. MIDIコントロールチェンジ番号の使用制限廃止 .....	5
3. ゲインリダクションメーター [ GR ] の変更 .....	5
4. RS-422プロトコルによるVTR制御 .....	6
5. オシレータON/OFFのショートカット操作 .....	7
6. チャンネル設定画面へ戻るショートカット操作 .....	7
7. ステレオ設定解除時のPAN設定位置 .....	7
8. タンデム接続カード装着時のレイヤーリンク設定 .....	8
9. フェードイン、フェードアウトタイムの設定 .....	9
10. 仕様比較 ( WR-DA7VとWR-DA7 ) .....	10
11. WR-DA7Vレベルダイヤグラム .....	11

# 1. デジタル出力の設定

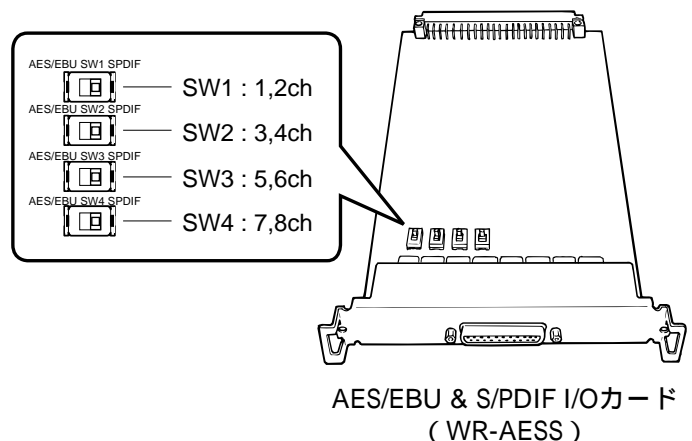
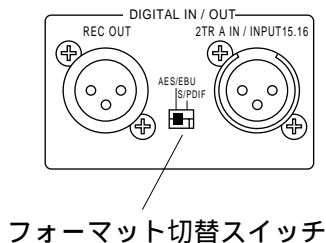
《関連ページ》  
第10章 デジタルI/O  
151 ~ 153ページ

デジタルI/Oのデジタル入力設定画面に「DIGITAL OUTPUT SELECT」部が追加され、7つのデジタル出力（REC OUTとAUX1/2、スロット1,2,3の1~4チャンネル、5~8チャンネル）に付加されるユーザービットの形式を、それぞれ「AES/EBU」または「S/PDIF」に切り替えることができます。

1. [D-I/O] キーを押します。  
デジタル入力設定画面が表示されます。



2. 手順1の操作でデジタル入力設定画面以外の画面が表示されたときは、テンキーの [1] キーを押します。  
続けて [D-I/O] キーを押すか、カーソルを画面下部のInput Setボタンに合わせ、[ENTER] キーを押すことにより切り替えることもできます。
3. DIGITAL OUTPUT SELECT部から、設定したいデジタル出力のボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押し、AES/EBUまたはS/PDIFを設定します。
4. DA7後面のレコード出力端子（REC OUT）右側にあるフォーマット切替スイッチと、AES/EBU & S/PDIF I/Oカード（別売品）のディップスイッチを、手順3で設定した状態（AES/EBUまたはS/PDIF）と同じ設定にします。  
フォーマット切替スイッチおよびディップスイッチは、出力信号の電気的仕様を切り替えるものであり、画面上のボタンとは連動しません。必ず、出力する信号形式に合わせてスイッチを切り替えてください。



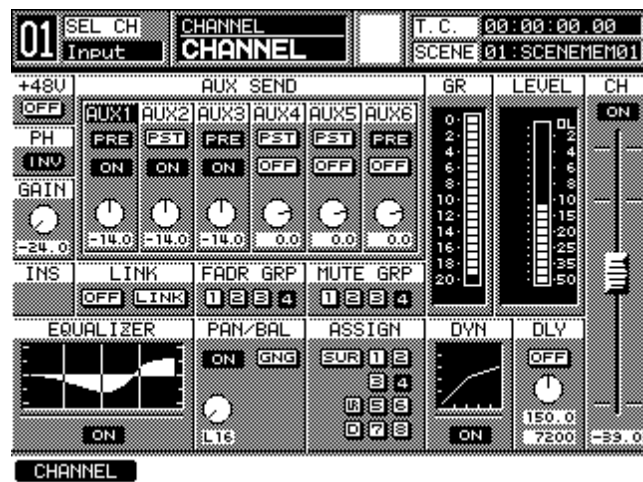
## 2.MIDIコントロールチェンジ番号の使用制限廃止

《関連ページ》  
付録 259ページ

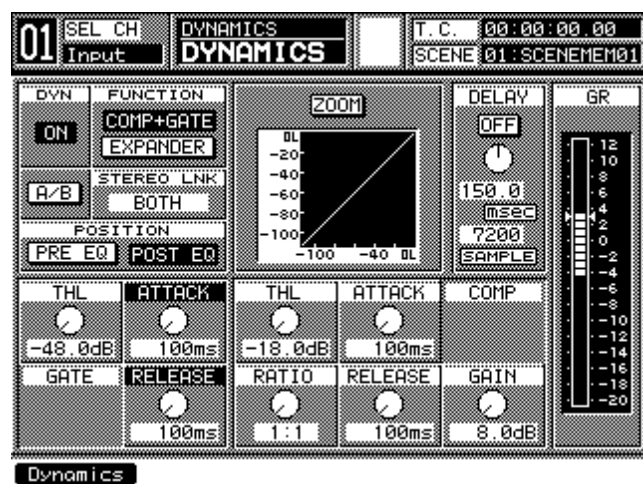
WR-DA7では、コントロールチェンジ番号「6」「38」「96～101」は使用不可能でしたが、WR-DA7Vでは、すべての番号（0～119）が使用できます。

## 3.ゲインリダクションメーター [ GR ] の変更

チャンネル設定画面およびダイナミクス設定画面に表示されるゲインリダクションメーターの目盛りを、2dBステップに変更しています。



チャンネル設定画面



ダイナミクス設定画面

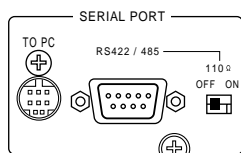
## 4.RS-422プロトコルによるVTR制御

《関連ページ》  
第15章 ユーティリティ  
215～217ページ

ユーザーコンフィグ画面の「RS422 9PIN PROTOCOL」を「ON」に設定することにより、VTRの制御が可能です。

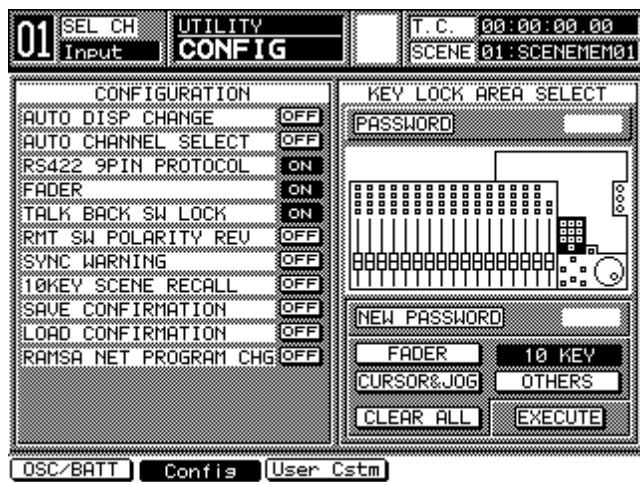
VTRを制御する場合を例に説明します。

1. DA7後面のRS-422/485端子（D-sub 9ピン）にVTRを接続します。



2. [UTILITY] キーを押します。

ユーティリティの設定画面が表示されます。



3. 手順2の操作でユーザーコンフィグ以外の画面が表示されたときは、テンキーの【2】キーを押します。

続けて【UTILITY】キーを押すか、カーソルを画面下部のConfigボタンに合わせて【ENTER】キーを押すことにより、ユーザーコンフィグ画面に切り替えることもできます。

4. 「RS422 9PIN PROTOCOL」のON/OFFボタンにカーソルを合わせて【ENTER】キーを押し、「ON」に設定します。

5. [MMC/CURSOR] キーを押してMMCモードに切り替え、カーソルキーでVTRのPLAY、FF、REW、STOPを制御します。

### メモ

RS422 9PIN PROTOCOLの設定を「ON」にしてVTR制御を行う場合は、次の制約があります。

- REPLAYとLOOPは操作できません。
- 通信速度は38.4 kbps固定です。

RS422 9PIN PROTOCOLの設定が「OFF」の場合、MMC制御に制約はありません。

## 5. オシレータON/OFFのショートカット操作

【MMC/CURSOR】キーを押しながら【UTILITY】キーを押します。  
押すたびにオシレータのON/OFFが切り替わります。

## 6. チャンネル設定画面へ戻るショートカット操作

PAN調整ノブを押すとサラウンド設定画面を表示できますが、誤ってPAN調整ノブを押してしまったときは、再度PAN調整ノブを押すことにより、サラウンド設定画面からチャンネル設定画面に戻ることができます。

## 7. ステレオ設定解除時のPAN設定位置

《関連ページ》  
第3章 チャンネル  
58,59ページ

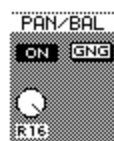
WR-DA7では、ステレオ設定を解除したときのPAN設定は、奇数チャンネル、偶数チャンネルともC（センター）ですが、WR-DA7Vでは次のようになります。

奇数チャンネル：左いっぱい

偶数チャンネル：右いっぱい



奇数チャンネル



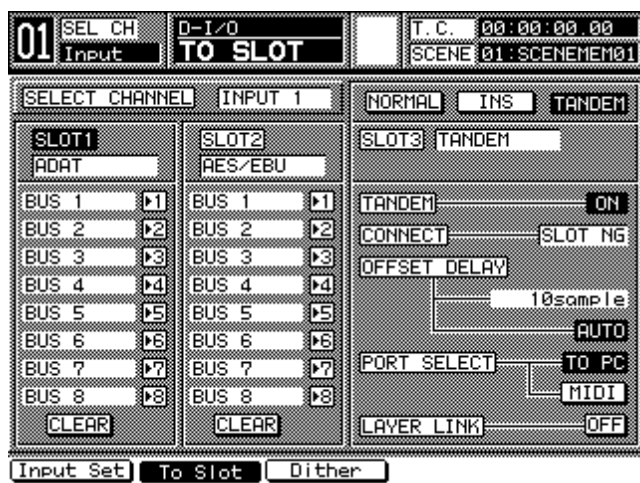
偶数チャンネル

## 8. タンデム接続カード装着時のレイヤーリンク設定

《関連ページ》  
第10章 デジタルI/O  
156ページ

DA7後面のロット3にタンデム接続カード（別売品）を装着すると、ロット設定画面のロット3設定部でレイヤーリンクのON/OFF設定が行えます。

1. [D-I/O] キーを押します。  
デジタルI/Oの設定画面が表示されます。



### メモ

[DIRECT] キーを押してもロット設定画面は表示できます。

2. 手順1の操作でロット設定画面以外の画面が表示されたときは、テンキーの [2] キーを押します。  
続けて [D-I/O] キーを押すか、カーソルを画面下部のTo Slotボタンに合わせ、[ENTER] キーを押すことにより切り替えることもできます。
3. LAYER LINKのON/OFFボタンにカーソルを合わせて [ENTER] キーを押し、レイヤーリンクのON/OFFを設定します。
  - ON : フェーダーレイヤーの切り替えが、マスターとスレーブ間で連動します。
  - OFF : フェーダーレイヤーの切り替えが、マスターとスレーブ間で連動しません。



# 9.フェードイン、フェードアウトタイムの設定

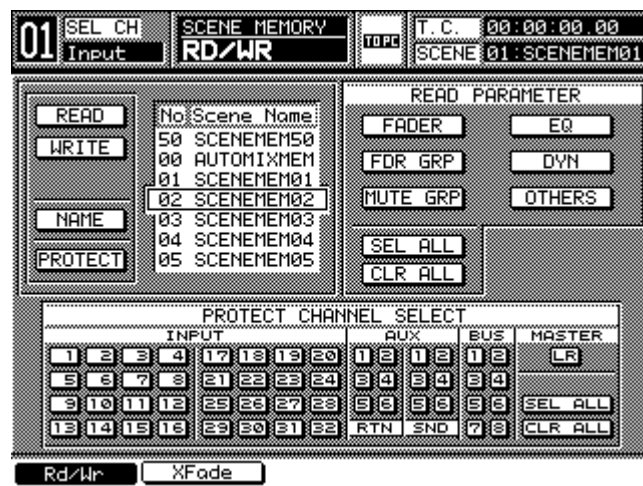
《関連ページ》  
第13章 シーンメモリー  
200ページ

シーンメモリー呼び出し時に、カレントとシーンメモリーでフェーダーレベルが異なる場合、フェードタイムを設定することにより、呼び出したシーンメモリーのレベルまでフェーダーレベルを連続的に変化させることができます。

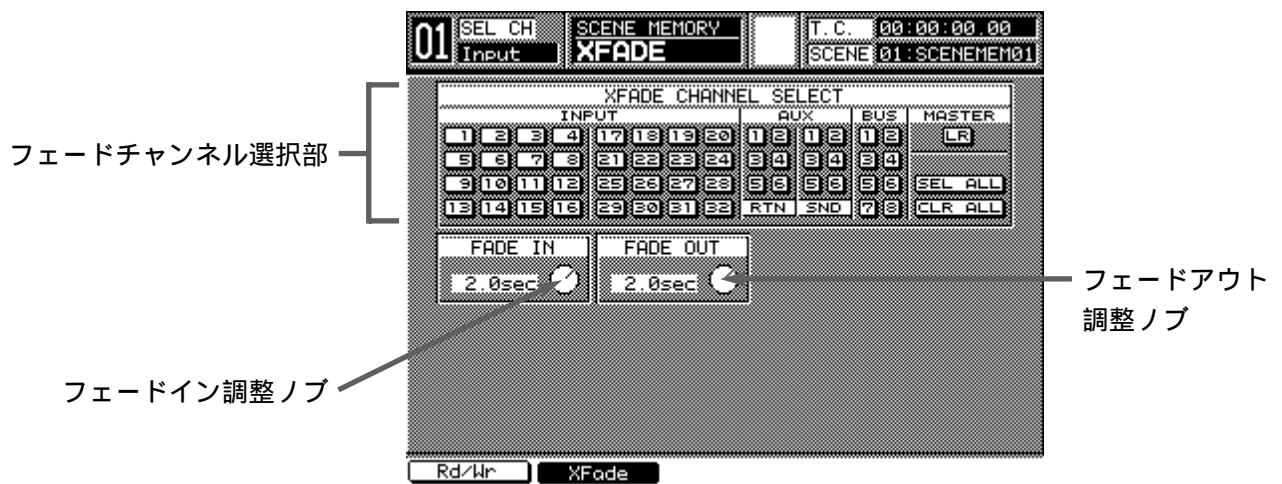
WR-DA7Vでは、フェードタイムの設定をフェードインとフェードアウトに分けて設定することができます。

## 1. [ READ ] キーを押します。

MEMORY番号表示LEDが点滅し、リード/ライト画面が表示されます。



## 2. リード/ライト画面下部のXFadeボタンにカーソルを合わせて [ ENTER ] キーを押し、フェードタイム設定画面に切り替えます。



- [ SELECT ] キーを押すか、フェードチャンネル選択部のチャンネルボタンにカーソルを合わせて [ ENTER ] キーを押し、チャンネルを選択します。選択したチャンネルは反転表示されます。  
SEL ALLボタンを選択すると、すべてのチャンネルが選択されます。  
CLR ALLボタンを選択すると、選択されているチャンネルが解除されます。

- フェードイン調整ノブまたはフェードアウト調整ノブにカーソルを合わせてジョグダイヤルを回し、フェードタイムを設定します。  
時間は0～3secの間で設定します。0secに設定した場合、フェード機能はOFF扱いとなります。

# 10.仕様比較

《関連ページ》  
付録  
251,252ページ

WR-DA7に対して変更になる仕様は次のとおりです。

## アナログ入力

項 目	WR-DA7V	WR-DA7
INPUT 1～16入力レベル	- 66 ~ + 4 dB	- 60 ~ + 10 dB
INSERTION RETURN 1～16入力レベル	- 2 ~ + 18 dB	+ 4 ~ + 18 dB
AUX RETURN 3～6入力レベル	+ 4 ~ + 22 dB	+ 4 ~ + 18 dB

## アナログ出力

項 目	WR-DA7V	WR-DA7
MASTER OUT L/R出力レベル	+ 4 ~ + 24 dB	+ 4 ~ + 18 dB
AUX SEND 3～6出力レベル	+ 4 ~ + 22 dB	+ 4 ~ + 18 dB
INSERTION SEND 1～16出力レベル	- 2 ~ + 18 dB	+ 4 ~ + 18 dB
REC OUT L/R出力レベル	+ 4 ~ + 24 dB	+ 4 ~ + 18 dB
MONITOR A OUT ( L/R ) 出力レベル	+ 4 ~ + 24 dB	+ 4 ~ + 18 dB
MONITOR B OUT ( L/R ) 出力レベル	+ 4 ~ + 24 dB	+ 4 ~ + 18 dB

## その他

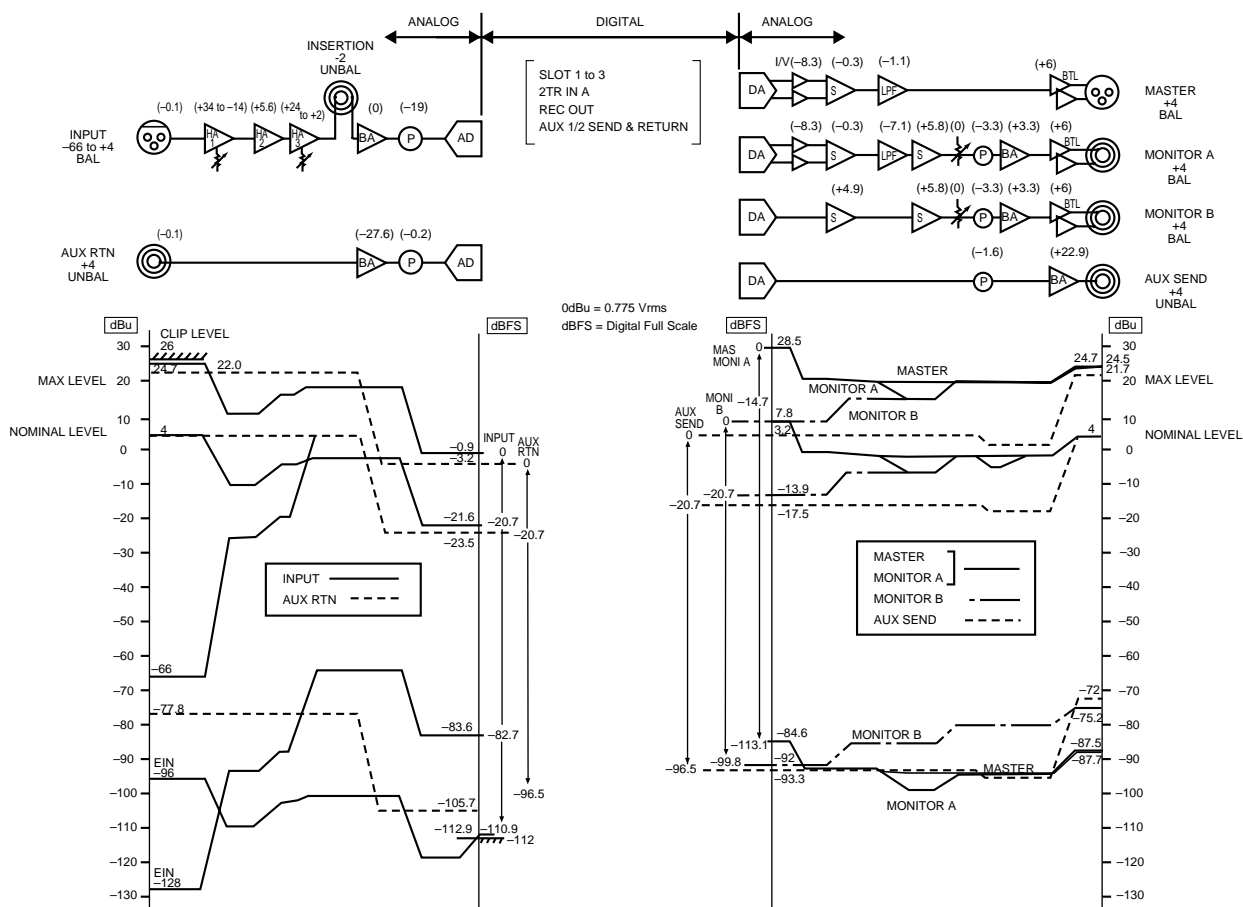
項 目	WR-DA7V	WR-DA7
SMPTE & V Syncカード ( 入力 )	標準装備 バランス	オプション アンバランス
20ポイントLEDメーター	橙色	- 20 dB以上
	緑色	- 22 dB以下

### メモ

上記以外の仕様はWR-DA7と同じですので、WR-DA7取扱説明書をご覧ください。

# 11.WR-DA7Vレベルダイヤグラム

《関連ページ》  
付録  
256ページ



**便利メモ**（おぼえのため、記入されると便利です。）

お 買 い 上 げ 年 月 日	年	月	日	品番	WR-DA7V
販 売 店 名	☎ ( ) -				

松下電器産業株式会社  
松下通信工業株式会社 AVシステム事業部  
〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎ (045)932-1231(大代表)

avM1299-0

A8QA5395AN